

中部防災ニュース 平成31年3月号

発行
静岡県中部地域局
 電話(054)644-9104
 メールchubu-kiki@pref.shizuoka.lg.jp

東日本大震災から学ぶ ～津波から命を守ろう！～

8年前の東日本大震災では、死者約20000人、行方不明者約2600人と多くの犠牲者が出ました。そして、そのほとんどが津波による犠牲者でした。

南海トラフ地震が発生した場合、静岡県の沿岸部にも津波が到達する可能性があります。今一度津波のことを知り、自分の命を津波から守る意識を高めましょう。

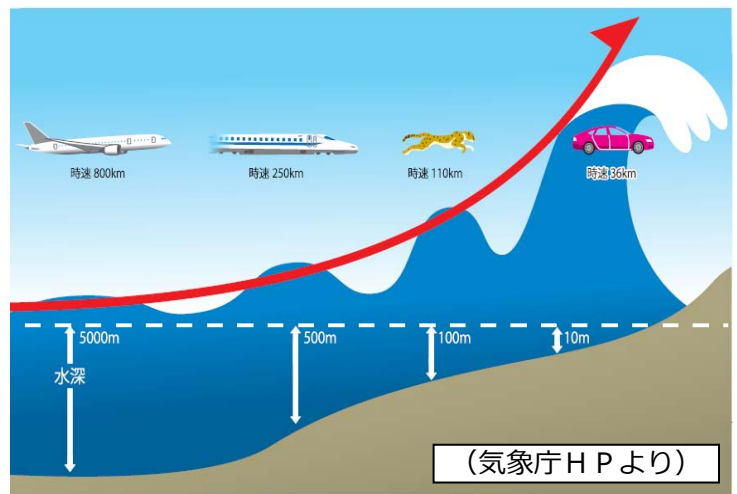


被災当時の岩手県大槌町

◆津波のスピードや威力は？

津波は、海底の深い所ではジェット機並みの速さで進みます。沿岸部でも時速30～40kmで進みます。地形によっては、更に速く進む可能性もあります。また、津波は海底から海面までの海水全体が動くため大きなエネルギーを持っています。0.2～0.3m程度の高さの津波でも、人は流れに巻き込まれるおそれがあり、とても危険です。

南海トラフ巨大地震は、揺れが最長で3分程度続く可能性があります。揺れがおさまった後、津波から避難する時間は、とても少ないといえます。もし、屋内で倒れた家具等が避難経路を塞ぐと、更に厳しい条件下で避難しなくてはなりません。



(気象庁HPより)

◆地震の後は、少しでも早く、少しでも高くに避難！そして戻らない！

地震が起こった場合、沿岸部では揺れがおさまったら少しでも早く、少しでも高い所へ避難してください。津波が来るかどうかを確認してからの避難では、間に合わない可能性が有り非常に危険です。

また、第一波が引いたとしても次の波が来る可能性があります。第一波が引いたからといって、しばらくは戻らないことが重要です。



◆今のうちに、やっておきたいこと！

- 自宅や勤務先、通勤経路等の津波リスクをハザードマップ等で確認しましょう。
 - 自宅や勤務先が沿岸部の方は、避難場所や避難経路を実際に歩いて確認しましょう。
- また、避難場所までに要する時間も確認しましょう。



例

津波避難場所



例

津波避難ビル
 (津波避難タワー)



揺れがおさまった後の素早い避難のために、家具等の固定や配置の工夫により避難経路を確保しておきましょう。



災害発生時の協力 ～傷病者等の搬送法～



災害発生時、けが人や身体が不自由な人などは、自分で安全な場所に避難することが難しい場合があります。こんな時は、周りの人と協力すると、一緒に避難することができます。今回は、2人でできる搬送方法について、紹介します。

○傷病者の前後を抱えて搬送する方法

- ・ひとりが傷病者の背中にまわり、脇の下から手を入れ前腕をつかむ。
- ・もうひとりが、傷病者の足を重ねて抱える。



傷病者の腕をしっかり持ち、身体を支える。

○搬送者2人が手を組んで搬送する方法

- ・傷病者を挟んで向かい合わせに立つ。
- ・搬送者は、傷病者の頭側の手で背中を支え、もう片方の手首を握りあい、傷病者の膝の後ろにまわす。



膝の裏



背中側

注意 搬送するときは、傷病者に声をかけたり傷病者の様子を確認したりしましょう。



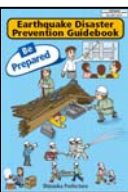
外国人の方も一緒に防災対策！

地域や職場で一緒に過ごす外国人の方にとっても、災害時のための備えは重要です。ただ、避難訓練や研修を通じて防災の知識や行動を伝えたいものの、言葉の壁で伝えにくいときがあるかもしれません。県では外国語版の防災に関する資料を作成しています。外国人の方々と共に取り組む防災対策に、是非ご活用ください。



『外国人住民のための避難生活ガイドブック』と『地震防災ガイドブック』があります！

地震や津波が起きたときに安全に避難して、安心して避難生活を送るための情報を紹介しています。やさしい日本語版の他に、外国語に翻訳したものがあります。日本語の理解がまだ難しい外国の方にも、ご活用できます。

冊子	作成元
『外国人住民のための避難生活ガイドブック』 (やさしい日本語版)	  静岡県 多文化共生課
『外国人住民のための避難生活ガイドブック』 (英語・ポルトガル語・フィリピン語版)	
『地震防災ガイドブック』 (やさしい日本語版)	 静岡県 地震防災ガイドブック
『地震防災ガイドブック』 (英語・ポルトガル語・スペイン語 ・タガログ語・中国語・韓国語版)	